

SDGs先進国フィンランドから学ぶ ウェルビーイング施策

2025.8.7

自治体国際化協会 第44回 オンラインセミナー

ヘルシンキ大学非常勤教授
岩竹美加子

略歴

東京出身

アメリカ、ペンシルヴァニア大学民俗学部博士課程修了（Ph.D.）

早稲田大学国際教育センター客員准教授、ヘルシンキ大学教授などを経て

現在、ヘルシンキ大学非常勤教授（Dosentti/Adjunct Professor）

アメリカに5年、フィンランドには1991年から在住

単著：『フィンランドの高校生が学んでいる人生を変える教養』（2024年、青春出版新書）

『フィンランドはなぜ「世界一幸せな国」になったのか』（2022年、幻冬舎新書）

『フィンランドの教育はなぜ世界一なのか』（2019年、新潮新書） など

SDGs (Sustainable Development Goals)

持続可能な開発目標

- ▶ 2015年、国連加盟国により 「SDGs のためのアジェンダ2030」 制定
- ▶ 貧困、不平等、人に対する収奪的な経済ではなく持続可能な開発
- ▶ 環境汚染、環境破壊、地球の資源枯渇のない開発
- ▶ 地球温暖化への対策
- ▶ より平等で生きやすい社会・世界
- ▶ 「先進国」「発展途上国」に関わらないグローバルな協働とパートナーシップ
- ▶ 17の目標と169のターゲット
- ▶ 「誰一人、取り残さない（Leaving no one behind (LNOB) ）」

SDGs 17の目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs 17の目標

- 1 貧困をなくす
- 2 飢えをなくす
- 3 健康とウェルビーイング
- 4 質の高い教育
- 5 ジェンダー平等
- 6 清潔な水と衛生
- 7 安価でクリーンなエネルギー
- 8 適正な労働と経済成長
- 9 産業と技術革新、インフラ
- 10 国内・国家間の不平等を減らす
- 11 都市とコミュニティ
- 12 責任ある消費と生産
- 13 気候変動への行動
- 14 海の生命
- 15 陸の生命
- 16 平和、公正、強固な制度
- 17 パートナーシップ

達成度ランキング (Sustainable Development Report)

- ▶ 毎年、17の目標を国・エリアごとに評価
- ▶ フィンランドは5年連続1位
教育とスキル、しっかりした社会的・政治的制度がSDGsの
実践を支えている。しかし、まだ不十分。さらなる努力が必要と自己評価
- ▶ 日本は19位（167カ国中 / 2025年）

フィンランドと日本、いくつかの比較

フィンランド

人口: 約560万人

国民一人当たりGDP (2024):
53 188,62 米ドル (約785万円)

ジェンダーギャップ指数 (2025):
総合2位 (148カ国中)

報道の自由度 (2025): 5位 (180カ国中)

日本

人口: 約 1 億2065万人

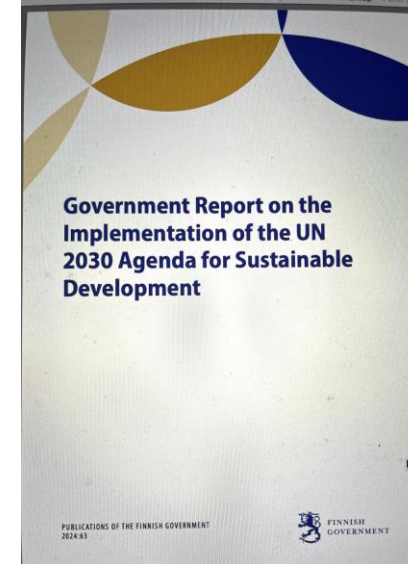
国民一人当たりGDP (2024):
32 475,89 米ドル (約479万円)

ジェンダーギャップ指数 (2025):
総合118位

報道の自由度 (2025): 66位

フィンランド政府の「アジェンダ2030」 (2024年)

- ▶ 自主的レポート (2017年、2020年、2024年)、2024年は138頁
- ▶ ポストコロナ、ウクライナ/ガザ戦争、NATO加盟、エネルギー危機、地球温暖化、インフレ等の文脈
- ▶ カーボンニュートラル (温室効果ガス排出量±ゼロ)
- ▶ 循環経済、リサイクル、資源の再利用
- ▶ 社会保障制度、議会政治だけではない民主主義
- ▶ 女性の権利と地位向上のスキル
- ▶ Sexual & Reproductive Health Services
Sexual & Reproductive Health Rights (SRHR、性と生殖に関する健康と権利) を当然とし、その公共サービスを提供
- ▶ 人権、平等、民主主義、法の支配が基盤
- ▶ ウェルビーイング国家
- ▶ 目標実現のための施策、改善された点、改善すべき点を明示
- ▶ SDGs は、広い意味の安全保障。安全で安心な社会
- ▶ SDGs とウェルビーイングは連結している

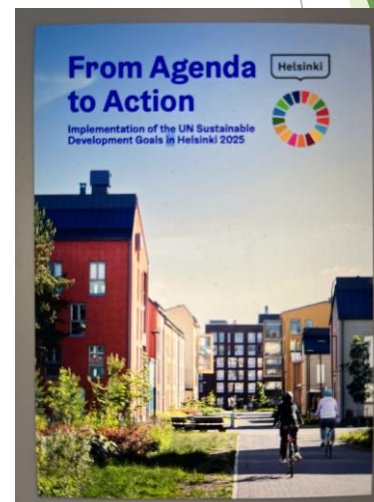


フィンランド政府の「アジェンダ2030」 (2024年)

- ▶ 17の目標は各省庁が共有、それぞれの分野で担当
- ▶ 17の目標は各自治体が共有、実行

首都ヘルシンキ市のSDGs 『アジェンダからアクションへ』 (2025年、106頁)

- ▶ 人口は69万人弱、少子化だが人口は増加
- ▶ 二酸化炭素排出量17%減少（2021年～2023年）
路面電車のルート拡大、自転車専用の道路・ルート
- ▶ 住居政策：社会的階層による住み分け防止、子ども・若者間の
分断防止への支出
- ▶ 教育政策：反レイシズムの活動推進
- ▶ 子どもの権利重視、北欧の首都として初のユニセフ「子どもにやさしい都市」認定（2024年）
- ▶ 放課後活動の「フィンランドモデル」（小3～中3）
- ▶ 性的マイノリティとのプライド・パートナーシップ推進



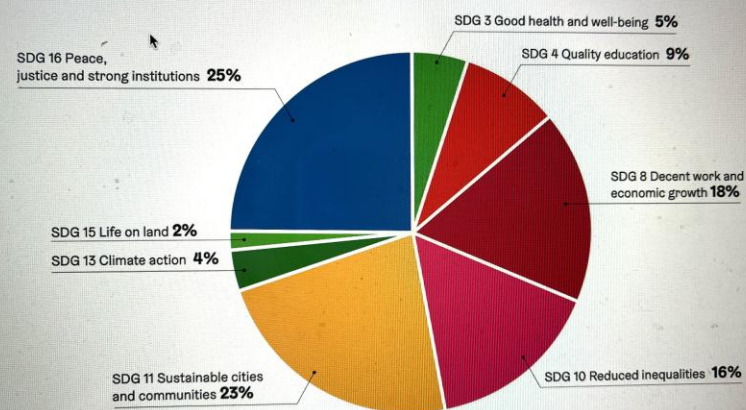
首都ヘルシンキ市のSDGs 『アジェンダからアクションへ』

SDG analyses for key programmes in the 2021–2025 strategy period

● Positive impact
 ● Indirect positive
 ● Conflicting
 ● Indirect negative

City-level programme / SDG	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
Welfare Plan 2022–2025	●	●	●	●							●	●	●				●
Implementation Programme on Housing and Related Land Use	●		●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Carbon-neutral Helsinki 2030			●				●	●	●	●	●	●	●				●
Integration Priorities 2022–2025	●		●	●	●			●	●	●							●
Economic Policy Priorities	●		●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Nature Reserve Programme 2024–2040			●	●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●
Tourism and Events Programme 2022–2026		●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

Budgetary targets 2025



ヘルシンキ市 17の目標を数値化、3段階で評価

😊 改善、 😐 同レベル、 😞 レベル低下

目標1 貧困をなくす 😐

- ▶ 住居手当を受けている世帯の割合 (20.5%)
 - ▶ 長期間、収入補助を受けている人の割合 (25～64歳、3.2%)
 - ▶ 低所得者の割合 (12.7%) など
- (フィンランドに絶対的貧困や極度の貧困はない)

目標2 飢えをなくす 😐

- ▶ 飢えはないが、廃棄される食品の無料配布を行っている

目標3 健康とウェルビーイング 😐

- ▶ 寂しさを感じる
- ▶ 平均寿命
- ▶ 生活の満足度 など

ヘルシンキ市 17の目標

目標4 質の高い教育 🧐

- ▶ 就学前教育を受ける子どもの割合
- ▶ 小中高・職業学校でのいじめの経験の頻度
- ▶ 修士以上の学位を持つ人の割合 など

目標5 ジェンダー平等 🧐

- ▶ 男女間賃金格差（女性は男性の約83%）
- ▶ 修士以上の学位をもつ男女の割合
- ▶ 市議会における女性の割合（56%） など

目標6 清潔な水と衛生 🧐

- ▶ 排水処理・浄水処理 など

ヘルシンキ市 17の目標

目標 7 安価でクリーンなエネルギー 🌞

▶ 再生可能なエネルギー生産とシェア拡大

(2000年代以降、住居で地熱エネルギー使用が一般化

太陽光パネルを集合住宅のベランダにつけ、室内冷却・床冷却に使用
地下小型原子炉、水素の開発など)

目標 8 適正な労働と経済成長 🤖

▶ 失業率

▶ 長期間の失業 など

目標 9 産業と技術革新、インフラ 🌱

▶ 起業 など

ヘルシンキ市 17の目標

目標10 不平等を減らす 🙄

- ▶ 地理的セグリゲーション (geographical segregation index)
- ▶ ジニ係数 など

目標11 持続可能な都市とコミュニティ 🙄

- ▶ 持続可能な公共交通機関
- ▶ 空気の質 など

目標12 責任ある消費と生産 🙄

- ▶ 消費による二酸化炭素排出量
- ▶ 市と家庭のごみリサイクル率 など

ヘルシンキ市 17の目標

目標13 気候変動への行動 🤖

- ▶ 二酸化炭素排出量を減らす など

目標14 海の生命 🤖

- ▶ 海の生態系 など

目標15 陸の生命 🤖

- ▶ 自然保護地区の数と全体のエリアに占める割合
- ▶ 森林の割合 など

ヘルシンキ市 17の目標

目標16 平和、公正、強固な制度 🤖

- ▶ 体感される安全
- ▶ 市議会選挙の投票率 など

目標17 パートナーシップ 😊

- ▶ 助成の数
- ▶ 2023年は約4千700万ユーロ（約80億円）の助成金 など

フィンランド / ヘルシンキ市のSDGsの特徴

- ▶ フィンランドの政治・社会の政策、考え方の延長上にある
不平等・格差を嫌う
人権、平等、ウェルビーイング、民主主義、法の支配が基盤
- ▶ SDGs 実現のために必要なのは、教育やスキル、教養を持つアクティブな市民という考え方。学校教育のあり方とも一致
- ▶ 社会保障、市民のウェルビーイング保障、完全無償の教育などは国の制度、行政の責任という考え方
- ▶ ウェルビーイングという概念の幅が広い
 - ・ フィンランドは「ウェルビーイング社会」「ウェルビーイング国家」
 - ・ 自分の体感から発して、社会へ、国家へと繋がる
 - ・ 目標3は「健康とウェルビーイング」だが、フィンランドでは全ての目標がウェルビーイングに連結

日本のSDGs / 東京のSDGs

- ▶ 内閣官房・内閣府総合サイト「地方創生」
- ▶ 各省庁でSDGs への言及はあるが、例えば農林省は私企業の取り組みとして紹介
- ▶ 東京都「SDGsポータルサイト」、都内区市町村のイベント情報のまとめたワークショップ、フェスタ、ゲームで楽しく学ぶSDGsの紹介など
- ▶ SDGs 17の目標、不正確な日本語訳 / 削除
 - 目標6「水と衛生」→「水とトイレ」
 - 目標8「適正な労働（decent work）」→「働きがい」
 - 目標13「気候変動への行動（climate action）」→「気候変動への対策」
 - 目標16「平和、公正、強固な制度（strong institution）」→「強固な制度」が削除

SDGsの課題

国際社会

- ・アメリカが国連総会でSDGs 拒否、非難（2025年3月）
- ・ポリティカル・コレクトネスを嫌う風潮
- ・気候変動は人為的理由によるものではないという考え

フィンランド

- ・一位と評価されたが、まだ不十分という認識
- ・現政権（2024年～）は中道右派。地球温暖化政策について消極的
社会保障削減、緊縮財政を行っている

日本

- ・17の目標、自国の問題として捉えているか？
「飢え」「ジェンダー平等」「エネルギー」「適正な労働」など喫緊では
- ・日本ユニセフ協会が17の目標を説明して使っているのは、全て黒い肌の子どもと大人、スカーフをつけたイスラーム圏女性

主な参考文献 1

City of Helsinki. 2025. *From Agenda to Action: Implementation of the US Sustainable Development Goals in Helsinki 2025.*

Finnish Government. 2024:63. *Government Report on the Implementation of the UN 2030 Agenda for Sustainable Development.*

Suomen YK-liitto. Kestävän kehityksen tavoitteet.
<https://www.ykliitto.fi/kestava-kehitys>

United Nations. Make the SDGS a Reality. <https://sdgs.un.org/>

日本ユニセフ協会、SDGs 17の目標
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/17goals/>